2017.7.18

会員の皆様、こんにちは。

今月初の都議会選挙で「都民ファーストの会」が多数派を占めることになりま した。これは、都民の自民党に対する率直な声として真摯に受け止めています。 さて、今回は「主要新聞社説は投票行動への影響力なし?」がテーマです。社 説と言えば、以前は新聞社の顔として世論に大きな影響を与えていました。しか し、昨今では、新聞離れが進み、世論形成にはテレビや週刊誌、ネットニュース の方が大きな役割を果たしているようです。社会の木鐸と言われてきた社説につ いて、識者が、今回の都議会選挙を通して考察しています。ご一読下さい。

石田まさひろ政策研究会

# 主要新聞社説は投票行動への影響力なし?

## ■ 社説の意義

新聞社の社説は社論であり、言論機関とし て見識の披歴でもある。

小池都知事は都議選告示直前の去る 6 月 20日、築地市場の豊洲市場への移転問題で、 記者会見を開き、豊洲に移転した上で5年後 をメドに築地市場跡地を再開発し、市場機能 を持たせる方針を表明した。

小池知事の方針について、主要紙は社説を 掲げ、言論機関として見解を明らかにした。 朝日、毎日、読売、日経、産経、東京(中日)



写真提供:東京都中央卸売市場

の6紙とも豊洲と築地を両立させる二兎(に と)を追う道が非現実であると同時に、築地 市場跡地を再開発に充てる財源を示さなかっ たことに強い懸念と疑問を呈した。

#### ■ 各新聞社の見解

東京(中日)(6月21日)は「市場再編の 方針は、斬新とはいえ実現性への疑問がつき まとう」とし、毎日は(6月21日)「市場の 将来像を描いたとは、とても言えない」、「豊 洲に市場を移してから、再び築地に戻ること は現実的なのか」と問い、日経(6月21日) は「豊洲に移転するめどを明言しなかった点 は残念だ」とした。読売(6月21日)は「築 地市場再開発 豊洲移転との両立は可能か」と 疑問を呈し、「二兎を追う知事の戦略は、思惑 通り進むのだろうか」と疑問を呈し、産経(6月21日)は「これでは判断材料足りぬ」と一蹴、朝日(6月22日)は「いかにも唐突な案で、いくつもの疑問が浮かぶ」と手厳しい。

築地市場跡地再開発となれば、新たなコス トが生じる。小池知事はその財源を示してい ない。東京(中日)は「築地跡地の売却益を 豊洲整備費に充てる従来の計画を取りやめ、 (中略)(築地の)土地の賃貸料を赤字必至の 豊洲市場の運営費に回す案がある。しかし、 不確定要素は多い」とし、毎日は「約6000 億円かけた豊洲市場の建設費は、築地市場跡 地の売却益約 4400 億円を充てる計画だっ た。売却せずに再開発するのであれば、新た な財源を確保する必要がある」と指摘。産経 は「築地と豊洲を両立させることが最も賢い (お金の) 使い方だ」と述べながら、このた めの予算や財源については今後、精査すると し、明らかにしていない」と厳しく批判。読 売は「築地を売却せずに賃貸するのは、長期 的に安定的な収益を確保するのが目的だ。こ れで豊洲市場の整備費や築地の工事費を捻出 できるかどうかは判然としない」と批判した。 朝日は「採算や財源のおおよその見通しも示 さないまま、二つの市場が併存できるような 夢を語った」と痛烈に批判。

### ■ ポピュリズムが作用した都議会選

これまで、小池知事の政治手法に好意的と見られてきた主要 6 紙だが、先行きが見通せ



ない状況が長引き、市場関係者の不安は増幅 し、移転延期に伴う業者への補償費が膨らん だことも見逃さなかった。

都議選を前に豊洲への移転に賛成する業者と反対の業者のどちらにもいい顔をし、無党派層の取り込みの思惑が見え隠れする姿勢も気になったようだ。同時に主要6紙の社説は平成21年総選挙の際、民主党(現民進党)が財源を示すことなくマニフェストを称するバラ色の選挙公約の中身や実現性の試算点検を怠ったことへの反省の表れだったと考える。

しかし、主要 6 紙の社説は有権者の投票行動に影響を与えることはなかった。去る 7 月 2 日投開票の結果、東京都議会選挙は小池東京都知事率いる「都民ファーストの会」が圧勝した。メディアの中で歴史と格式と権威は新聞が一番と見られてきたが「都民ファースト」というある種のポピュリズムに抗することができなかった。

政治評論家 伊藤 達美

# Seki-snin 石心 石田まさひろ政策研究会メールマガジン vol. 013

このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。ご意見は info@masahiro-ishida.jp までお寄せください。

【配信停止・設定変更】 本メールサービスの解除を希望する方は、石田まさひろ政策研究会までご連絡ください。

【配信元】 石田まさひろ政策研究会 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-1-1